

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県・豊橋市立東陽中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒440-0022 愛知県豊橋市岩崎町字野田1の2
E-mail touyou-j@toyohashi.ed.jp
Website <http://www.toyohashi-c.ed.jp/touyou-j/>
児童生徒数 男子 251名 女子 253名 合計 504名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

東陽中学校区は、農業を中心に発達してきた。そのため、豊作祈願、和太鼓といった風習や文化が、歴史をもつ寺社や葦毛湿原に代表される豊かな自然とともに受け継がれてきた。一方、校区の区画整理事業が進捗したこと、市内最大の団地が存在するため、住民の転出入も多くなった。とりわけ近年は、外国人労働者の転出入が顕著になり、本校の外国人生徒等の数も80名を越す状況になっている。そのため、新しい住民とお互いの理解を深め、地域に伝わる歴史や文化を守り、さらによりすばらしく発展させていくことが不可欠である。この目標の実現のための基礎づくりを行うには、中学校という時期は最適であると考え。そこで、教科の学習内容、地域学習や学校行事等を関連付けた活動を次頁のように取り組み、ESDを「自然と伝統」の観点から学習を深めていく。

① 自然・環境を考える活動

下左写真は、朝倉川育水フォーラム主催の朝倉川清掃活動を受けて行っている、本校に隣接する利兵池の530運動。下右写真は、朝の登校時にビニル袋片手にごみ拾いをしながら行う530登校の様子。



② 地域の施設に関わる人々にふれる活動

右写真は岩崎学園（社会福祉法人）の園遊会に生徒会執行部が中心となって参加。



③ 地域に伝わる文化・歴史にふれる活動

1年生が5月に行う校区探検。下左写真は、龍岩院探検。下右写真は、移転した小学校の旧校舎を利用した古多米資料館。



④ 行事等を関連づけた活動

下左写真は、体育祭のフィナーレをかざる、全校生徒、保護者で行うソーラン踊り。下右写真は、後輩に伝統を引き継ぐ、引き継ぎ式の和太鼓演奏。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ユネスコスクール ESD 優良実践事例集
- ・一目でわかる ESD 推進事業ガイド
- ・ESD 環境教育モデルプログラムガイドブック など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校務分掌において、ＥＳＤ教育担当教師を位置付け、１年間のＥＳＤカレンダーを作成して、学校の教育課程とリンクさせ実施している。

指導内容については、総合的な学習の時間を核として、各学年の担当教員を中心に実践活動を行っているが、指導方法の研修会を設定していないため、教員の中から外部講師招聘による研修会を望む声が強くなっている。来年度以降の課題である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

リサイクル活動に積極的に関わることによって環境意識向上をはかり、福祉やワクチン支援につなげようと、エコキャップ回収活動を行っている。この活動では、生徒たちが家庭から自主的に多くのペットボトルキャップを持参している。平成２６年度から、豊橋市主催の「ええじゃないか PET キャップグランプリ」に参加し、H26 努力賞、H27 年最優秀賞、H28 年特別賞を受賞している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価項目に位置付けていません。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の内容を随時ホームページに載せ、保護者や校区住民に広く発信している。年2回実施している学校評議員会の方々からは、「ESD関連の行事を行っている様子がよく伝わっている。しかし、ESD教育を何のために行うのか、生徒たちの意識はどう変化したのかなどの情報は、まだまだ伝わっていないのが現状である。」などの意見をいただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に行っていません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール豊橋大会に教職員が積極的に参加し、研修内容を校内で還元する活動を行った。また、同大会の企画である「ESDメッセージコンテスト」に全生徒が応募をし、市内でも上位を占める入賞者数の結果となった。入賞した作品は、学校玄関で展示をし、学校開放日に合わせて保護者や校区住民が訪れた際に目に留まるよう啓発活動に取り組んだ。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

毎年4月に朝倉川環境保全の一環で、利兵池周辺や東陽中学校近辺の清掃活動を行っている。この活動は、生徒会の執行部が当日の運営やゴミの回収・分別・運搬を行い、生徒主体の活動になっており、毎年ボランティアの生徒が100名近く集まり、空き缶やペットボトル、その他さまざまなゴミを拾っている。12月に行うマラソン大会で使用する場所でもあり、生徒たちは自分たちが使用する場所をきれいにしようという気持ちをもって活動に取り組んでいる。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度は、本校の活動の1つの柱である国際理解教育をより系統的な流れになるように計画の見直しを考えている。3年間を見通して、学習のねらいを（知る→考える→行動する）と生徒の発達段階を考慮して位置付けていく。

1年の「知る」では、異文化との体験的なかわりを通して、異なる文化の存在や課題に気づくことを目的としたい。（例：日本とは異なる文化圏から来日した人たちの苦勞について、知る。など）

2年の「考える」では、1年時の学習で気づいた課題について調べ、それを解決する方法を考えることを目的としたい。（例：（外国人をめぐるさまざまな労働問題や移民出稼ぎの問題、日系人の歴史について、調べる、考える。など）

3年の「行動する」では、2年時の学習をふまえ、身近な課題の解決策を考え、活動することを目的としたい。（例：行ったことを振り返り、よりよくするための工夫や手だてを地域の講師の人から学ぶ。その後、生徒が中心となって地域の方々との交流会を企画する。など）